

学生サポート施設や最新の研究所を整備

福島大学では、地域社会の未来を支える最先端の研究に取り組んでいます。近年では、「水素エネルギー総合研究所」を設置し、地域資源を活用した持続可能なエネルギーシステムの研究が本格的に始まっています。

また、キャリアセンター、アクセシビリティ支援室、国際交流センターなどによる多様なサポートを充実させ、学生一人ひとりの成長と学びを支えています。



International Center

学生の国際交流を推進 国際交流センター

国際交流センターは、①海外の大学等との学術交流および学生交流の企画・推進、②留学生教育の企画・立案、③教育研究面での国際交流を図ることを目的として、2012(平成24)年4月に設立されました。

本センターでは、学生の派遣および受入、短期留学プログラムの企画・立案および留学生の修学上・生活上のサポートを行っています。留学生用宿舎である国際交流会館の管理運営も担当しています。

センター内では、本学と学術・学生交流協定を締結している大学の情報や、留学の報告書なども閲覧することができます。

さらに、留学や語学学習に関する図書の貸出や、希望者には語学試験対策も提供しています。留学に関わる生活や学習の相談、在留資格、地域のイベント案内、手続きなどもここで確認することができます。



Career Center

就職を支援し将来への見通しを形成する キャリアセンター

キャリアセンターは、大学における学生の多様なキャリア形成を図り、就職活動等を支援することを目的として、2022(令和4)年4月に設置されました。キャリア教育部門、キャリア支援部門、渉外部門の3つの部門を設け、学部・大学院の教員と連携し、就職先等の開拓、情報共有を行い、学生が自らライフプランを考え、納得して進路決定ができるよう、学生の成長をサポートすることを目指しています。学生向けには、キャリア相談員による書類添削、模擬面接を含めた個別相談を行っており、その他にも、OB・OG紹介、就職に関する書籍の貸出、ガイダンス・セミナー・合同企業説明会を企画・実施しています。

また、企業等からの求人・アルバイト受付の他、採用担当者との面談も行っており、採用担当者とともに本学学生を対象とした学内個別説明会を開催しています。



Healthcare Center

学生の健康的な生活を支援する 保健管理センター

1981(昭和56)年4月に設置され、1982(昭和57)年3月に専用の建物が竣工。同年4月より本格的に業務が開始されました。本センターには、医師・保健師・看護師が配置されており、学生および教職員の健康の保持増進を図るために、保健管理に関する専門業務を行っています。具体的には、保健管理計画の企画および立案、定期および臨時の健康診断の実施と事後対応、精神的および身体的健康相談、外傷・急病の応急処置、カウンセリングなどです。

また、月に一度、外部より、婦人科の医師(女性)が来所し、専門の相談に応じています。



Accessibility Support Room

多様な学生の生活をサポートする アクセシビリティ支援室

アクセシビリティ支援室は、障がいのある学生の支援を行うことを目的として、2015(平成27)年4月に設置され、障がいや疾患のある学生が他の学生と同じように大学生活を送ることができるための修学上の支援(合理的配慮)を行っています。

学生や保護者からの相談、授業担当教員や関係部署間のコーディネート、学外の社会資源との連携のもと配慮を実施しています。

また、PCノートテイク講座の開催や学習サポート、冬期間の除雪活動などの支援者となる学生サポーターの養成・派遣も実施しており、学生同士で助け合う相互支援の経験を通してお互いの協同する力をつけていくことを目指しています。



地域と連携して共に未来を創生する

地域未来デザインセンター

福島大学では、「地域創造支援センター」と「うつくしまふくしま未来支援センター」を発展的に統合し、2022（令和4）年4月に新たに「地域未来デザインセンター」（以下、デザインセンター）を設置しました。デザインセンターは、地域と大学との窓口を担うと同時に、大学による地域貢献を推進する役割も担っています。福島県は、急激な人口減少や少子高齢化、震災からの復興など複雑かつ特有の課題を抱えています。福島大学の持つ専門知と、地域の課題やニーズを繋ぎ、「幸福度の高い福島の実現」を目指し活動を行っています。

主な取り組みとしては、地域のDX、震災復興、震災の記憶の伝承、社会課題解決に向けたプロジェクトの実施及び支援、起業やAI等に関する講座、イノベーション人材の育成プログラム等を行っています。いずれも教員や学生に加え、地域の市民や自治体、企業等とも連携しながら取り組んでいます。

さらに、これらの取り組みの実施や、学生含め学内外の人々が語り合い、アイデアを出し合う場と機会を創出する空間として、イノベーションcommonsやインキュベーションルームを整備しています。



原発事故後の環境放射能研究を推進し世界をリードする環境放射能研究所 (IER)

東日本大震災後の福島第一原発事故を受け、2013（平成25）年7月に設立。環境放射能学に関する国際的研究拠点として、放射性物質の循環・その生態系への影響解明などを対象とした研究と次世代を担う研究者や技術者の育成を推進しています。環境中の放射性物質は、大気・水循環、生物活動などにより、その物理化学的形態を変えつつ環境中をダイナミックに移動しています。そのため物理学、化学、生物学、工学、環境科学、データサイエンスなどを専門とする国内外の研究者が連携し、国際的な枠組みの中で環境放射能学の知識基盤を支えています。

原子力災害の被災地域における実践的な研究・教育プログラムを実施しています。3年次後期から研究室所属が可能で、最先端の研究に触れ、主体的に研究を進めることのできる能力を養成します。学部卒業後は大学院への進学も可能。

福島原発事故から得られる知識と経験に基づき、人と環境の放射線防護体系の深化、効率的な放射能除染・除去技術の開発、農林水産業をはじめとする被災地産業の復興の実現およびその担い手の育成を目指します。

環境放射能研究所HP▶



高校生の皆さんへ

人の命が、地球上の物質の流れの中で得られる大気、水、食品としての動植物に依存しているということを考えると、環境放射能動態研究がもたらす科学的知見は、人類の営みが「持続可能」であることを目指す上で鍵となり、地球環境問題の理解と解決につながります。福島をフィールドに共に学び、世界の最前線で活躍するリーダーを目指しましょう。



福島大学環境放射能研究所
所長 難波 謙二

発酵の研究を通して食品の価値を高める

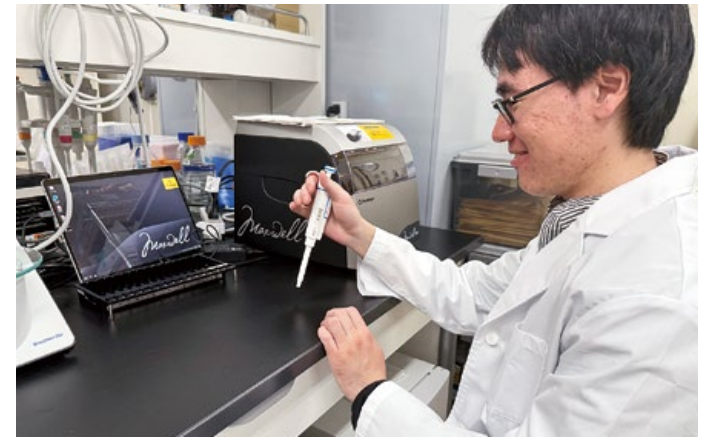
発酵醸造研究所

発酵醸造研究所は、2021（令和3）年4月に設置されました。研究所にはフードチェーンに沿って「①素材生産・環境部門、②発酵醸造食品部門、③食健康・社会実装部門」、また部門横断的な位置付けで大容量の情報・データを扱う「④データ科学部門」が配置されています。発酵醸造の総合的・学際的な研究プロジェクトを推進するため、4研究部門を統括する「研究統括部門」を配置し、研究所の管理・運営を行っています。

発酵醸造素材作物の生産から発酵微生物、発酵醸造食品とその機能までを包含する総合的な基盤研究を展開しています。

また、地域の農林水産業、食品関連産業に関連する課題解決型研究（ローカル）プロジェクトを産官学連携による橋渡し研究として推進しています。さらにこれらの成果を国際的な課題、地球規模の課題の解決にも繋げる学際的先端（グローバル）研究として発展させることを目指しています。

発酵醸造研究所HP▶



水素エネルギーを中心とした地方創生に取り組む水素エネルギー総合研究所

水素エネルギー総合研究所は、2024（令和6）年4月に設置されました。

本研究所では、福島県の重点課題の一つである水素・再生可能エネルギーに関する教育研究を推進するため、水素を中心とした再生可能エネルギーの製造、貯蔵・輸送、利用、管理という一連のエネルギー循環を強く意識した研究を行います。

2025（令和7）年度から、内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業「バイオマス由来水素・炭化物製造システムが導く地方創生」を開始するとともに、日本学術振興会「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に連携大学として提案大学の山梨大学と共に進めています。今後は、これまでに本学が協定を締結した連携先と協力して教育研究体制を構築しながら、水素エネルギーを中核に据えた地方創生に取り組むため、地域の産官学が連携して魅力的な水素関連産業を創出するとともに、地域産業を担う専門人材を育成するための拠点となることを目指しています。

水素エネルギー総合研究所HP▶

